

発達障害者地域支援マネジャーの取組

取組名	強度行動障がいの人材育成について①
目的	強度行動障がいに関して、静岡市の支援体制作り（強度行動障がい者支援プロジェクトチーム（静岡市障害者自立支援協議会で承認）への参加と、コンサルテーションを実施し、困難ケースへの助言等を目的とする。
①強度行動障がい者支援プロジェクトチーム	＜取組のポイント＞ 政令市の役割として、人材育成、広域的人材の配置、協議会等を活用しながら広域での支援体制整備、強度行動障がいを有する者の支援ニーズの把握、関係機関の連携した支援体制構築に対して取り組む。 ＜プロジェクトチームの参加者＞ ※座長：生活介護事業所（入所）、障害者支援施設（入所）、生活介護（通所）、児童発達・放課後等サービス、静岡市発達障害者支援センター、行政 【準備会6/27】強度行動障がい者支援プロジェクトチームの目指す方針や目標について協議。 【第1回9/18】市内の人材育成の課題について意見交換/市内で参加できる研修の調査（市外開催の研修も含めて調査）/事業所へのヒアリングの検討 【第2回11/11】市内で参加できる研修の一覧表を作成/研修の整理と参加対象者の階層を整理/基礎的な内容の研修からスペシャリスト育成までを視野に入れた計画の立案/入所及び通所事業所への聞き取り（訪問）内容の精査 ＜今後の予定＞ 令和6年度：あと2回程度実施予定 令和7年度：調査の実施、静岡市の強度行動障がいに関する研修情報の整理、強度行動障がいサポート事業の整理、静岡市の強度行動障がいに関する人材育成ビジョンづくり

発達障害者地域支援マネジャー事業

取組名	強度行動障がいの人材育成について②
②コンサルテーション	<取組のポイント> 強度行動障がい者支援プロジェクトチーム（静岡市障害者自立支援協議会で承認）とも協働をしながら、施設の人材育成を目的にコンサルテーションを実施する。 <取組内容> <u>A事業所（入所）</u> ・ 11/19（火）行動観察と個別支援計画の検討 ・ R7年1月に施設職員とアセスメント実施予定。 <u>B事業所（通所生活介護）</u> ・ 10/1（火）行動観察と個別支援計画の検討 ・ R7年1月または2月に2回目の訪問実施予定。 <u>C事業所（通所生活介護）</u> ・ 5/20（月）通所1か所において、第1回目のコンサルテーションを実施。7/19（金）職員研修（ABC事業所合同研修）「強度行動障がいの概要と支援 行動の見立て（ABAを活用して）」（60分）を実施。 ・ R7年1月または2月に2回目の訪問実施予定。 <今後の予定> 市内施設への令和6年度以降について、コンサルテーションの実施方法（内容、募集方法、訪問施設数や回数等）を検討。

発達障害者地域支援マネジャー事業

取組名	強度行動障がいの人材育成について③
発達障害者支援センターからみる静岡市の課題	強度行動障害やそれに関連する研修について、プロジェクトチームで確認したものだけでも、初任者からスペシャリスト育成までを目的としたプログラムが検討できることが分かってきた。一方で強度行動障害や自閉症に関連する研修が整理されていないため、系統だった人材育成ができておらず、「やる気のある支援者」が個々に受講する場合が多いことや、施設内で支援チームを組織できないといった現状につながっている。 また「自閉症」や「発達障害」をテーマとした研修を受講しても、それが強度行動障害支援にもつながる学びであることに気づきにくい現状であることも課題である。 コンサルテーションを実施した施設においては、窓口となる支援者およびケースカンファレンスに参加した支援者においては、基本的な強度行動障害の研修を受講している支援者が中心となり、支援を実践している一方で、第三者から実践を評価される機会がなく、実践が利用者にあっているのか不安に感じている場面が多々あることが分かった。コンサルテーション等を通した、支援者を支援する体制作りが課題である。
所感	当センター開設時から、「発達障害の理解と支援」をテーマとした多岐にわたる研修会を行っているが、今年度の取組を通じて、“強度行動障害”をテーマとした場合の、静岡市内の研修や支援体制について十分把握できていなかった。 これまで支援機関や教育機関に実施してきたコンサルテーションの実施方法が、強度行動障害への支援にも寄与できることや、強度行動障害支援者の支援では自立支援課題の提供が必要であるが当センターのコンサルテーションでは助言に限界があることも実感している。 また、特にプロジェクトチームに参加し、意見交換をすることを通して関係機関とチームによる支援体制作りが重要であること、そのために自立支援協議会等と関係施設や関係機関等とのハブになる役割も求められていることを理解することができた。 今後の課題としては、プロジェクトチームで人材育成を整理しながら、当センターに求められる役割を整理することが課題である